

「荷物を背負った人生はそれなりの味がする」

先日、第 26 回日本サイコネフロロジー研究会に参加するため、上州高崎に行ってきました。今回は 42 年以上に渡る透析の後に亡くられました、皆様もよくご存じの春木繁一先生の追悼会が開かれるということで出席致しました。

先生は旧黒崎クリニック時代に二度ほどご講演に来られ、何くれとなく患者様との関わり方についてご指導を受けておりました。私の最後の講演も先生のご推挙によるものでしたが、そのまとめをご校閲頂かないままに逝ってしまわれました。

今回は会場で頂いた『透析ケア』掲載の「荷物を背負った人生はそれなりの味がする」という、奥様であります春木宥子先生が編纂された追悼特別号を紹介致します。

『透析ケア』初刊以来の掲載文と、先生の生き様が書かれた著書などを抜粋されたものであり、殊に先生の終末期でのご家族と奥様との関わり方、御自身の心境などが切々と述べられております。これらはいつも私共が日常の診療で接し、またいろいろ感じることと何ら変わりありません。ぜひ皆様ご一読願います。

春木繁一先生のご冥福をお祈り致します。

平成 27 年 6 月 3 日

はまゆう会会長 市丸 喜一郎

(書き起こし・校正：椎葉)

『透析ケア』第 26 回日本サイコネフロロジー研究会

春木繁一先生「荷物を背負った人生はそれなりの味がする」追悼特別号

春木宥子編

(新王子病院 4 階ロビー 私の本棚)